

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈8月16日（金）放送分〉

テーマ「奄美群島12市町村の伝説・昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今年度は、毎月第3金曜日に、奄美の伝説や昔話などを紹介する「奄美群島12市町村」シリーズをお届けします。

第5回目は喜界町の昔話「竜^{りゅうじん}神^{ぎよふ}と漁夫」です。

昔、喜界島の志戸^{しとおけ}桶に住んでいた漁夫が、かがり火^びや漁の道具を一人で持って、夜の漁に行きました。その夜はどうしたことから大きな魚がたくさん獲^とれて、獲れた魚を背負って家に帰るのもやっとのことでした。

漁夫は、この分だったら明日の晩もたくさん獲れるに違いないと思って、かがり火に使うサトウキビの殻^{がら}をたくさん妻に干させておいて、自分はゆっくり昼頃まで眠りました。

晩になると漁夫は潮の様子を見て、サトウキビの殻をたくさん背負って浜へ下りました。ところが今まで晴れてぴたっと風^ないでいたのに、急に大雨が降り出して、たちまちの間に漁夫はかがり火から体までズブ濡れになってしまいました。

漁夫は、「はあ、これは昨晚あんまり魚を獲りすぎたので、龍宮の神様が怒ってこんな大雨を降らせたのに違いない。今晚はもう帰ろう。だが、せめて濡れてしまったかがり火だけでも海に投げ込んで龍宮の神様に差し上げたら、今回は自分を許してくれるかも知れない。」と思って、「そおら神様、受け取ってください。」と叫んで全部のかがり火とサトウキビの殻を海の中に投げ込みました。

すると不意に後ろの方で「いっとき待ちなさい。」という声がするので漁夫は、誰も人間のいた様子はなかったが不思議なことだと思って、振り返ってみると、一人の男が立っていて「さきほどはありがとうございました。」といいました。漁夫が「あなたは誰ですか。」と聞くと、「私は龍宮の神様に^{つか}遣わされてやって来た者です。今、龍宮では焚き物^たが不足して困っているところでしたが、あなたがこんなにたくさんの焚き物をくれたので、龍宮の神様は大変喜び、ぜひあなたを^{やかた}館に連れてきなさいということになりました。どうか私と一緒に館に行ってください。」と言いました。

漁夫は「自分は龍宮へ行くのは嫌だ。」と言いましたが、遣いの男は、「ほんのいっとき目をつむっていれば、ただそれだけで龍宮へ行けますから、何も心配はいりません。」と言うので、漁夫はそれならばと思ってちょっと目をつむると、いつの間にか龍宮の門^{もんぐち}口まで来ていました。見ると館は金^{きん}が張り付けてあり、ピカピカ光って何とも言えない美しさでした。

やがて漁夫が龍宮の神様の前に行くと、たくさんのごちそうが出ました。二・

三時間もすると龍宮の神様が、「お前も夕方になるといかなだろうから、もう戻るがよい。それで何か一つ土産^{みやげ}をあげようと思うが、お前が好きな物があれば何でも言ってみなさい。」と言ったので漁夫は、「私はもうこんなごちそうを受けた上には、別に何も望みはありません。」と言いました。神様は「いや、この世に生まれてきて、神様でも人間でも、欲しい物がないということはない。何でもよいから一つ言ってみよ。」と言うので漁夫は、「それならば申し上げます。実は私は馬が大好きな人間で、かねてから立派な馬を一頭欲しいと、そればかり思っていました。」と言うと神様は、「そうか、それで今はどんな馬を持っているのか。」と尋ねました。漁夫は「今は栗毛^{くりげ}の馬を一頭持っております。」と答えると神様は、「よしよし、どんなことがあってもその馬を手放すなよ。」と言いました。

漁夫は龍宮を出て島へ戻りましたが、たった三時間だと思っていたのが、三日も時間がたっていました。

その後、漁夫が持っていた栗毛の馬は七十歳まで生きて、百二十頭の子を産みました。みんな立派な馬ばかりで、それ以来、志戸桶の村は名馬が出るようになったということです。

さて、みなさんには「今、欲しい物」がありますか。先程のように、「人間が神様からお土産をもらう話」というものは、昔からいろいろとあります。

今回のお話では、前日の大漁に神様が怒っていると思った漁夫が、おわびに焚き物を海に捧げたことから話が進んでいきます。また、神様から最初に欲しい物を尋ねられた際には、ごちそうを食べたので欲しい物はありませんと漁夫は答えていました。このように「あまり欲張りすぎない謙虚な主人公」には、幸せなことが訪れるパターンが多いようです。逆に欲張りすぎると…、大変な目に遭うパターンはみなさんもたくさんご存知だと思います。

人間にはいろいろな欲があると思いますが、何事もほどほどがいいのかも知れません。でも、このお話のように神様から欲しい物を一つもらえとしたり、いろいろと欲望が広がってしまいそうです。

奄美図書館には、このような面白い本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、みなさまのご来館を心よりお待ちしております。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。